

## もの・まちづくりサークル縁

代表 田中 杏我 氏



### 【縁について】

まず自分たちのサークルについて説明します。私たちは山形大学工学部建築・デザイン学科の有志を中心に構成されている「もの・まちづくりサークル縁」です。縁に込めた思いですが、「えん」、「ゆかり」、「よすが」、「えにし」のように縁には多くの意味があり、これらを大事に活動しています。サークルの参加目的も活動の方法も様々で、縁という言葉が根幹でつながっています。建築・デザイン学科には私を含め、いろいろなバックボーンを持つ人たちがいて、そういった人たちが受け入れ、新しい山形大学を作ろうという事で活動しています。先代の代表の思いも受け止めつつ、自分たちでさらに良くしていこうと活動を行っています。現在のサークル組織について説明すると、建築・デザイン学科の有志八十四人が集まって活動しており、活動場所ごとにプロジェクトリーダーを置いてリーダーを中心活動しています。その中には山形市、上山市を担当しているリーダー、米沢市を担当しているリーダー、学内のイベントを中心に担当しているリーダーの主に三つで活動しています。様々な活

動を行っています。活動ごとに参加者を募ってメンバーの自主性に委ねた自由なサークルになっています。

### 【自分自身について】

私は建築・デザイン学科の四年生で、伝統建築について学んでいます。出身は、山形とは縁もゆかりもないような埼玉県羽生市という熊谷市に近い暑い町です。山形は涼しいかなと思ったら、すごく暑かったです。雪は大変だなと思っています。新鮮な楽しい生活を日々送っています。趣味はアート鑑賞や建築探訪です。私も含め個性豊かなメンバーが活動しています。

### 【東町プラットフォーム】

ここからが本題で、現在進行中の主な活動について説明します。最初に、「東町プラットフォーム」への参加について説明します。米沢市の旧町名に東町というところがあり、そこを中心に町内会、まちづくり会社、大学の先生など、いろいろな方が集まって立場や年齢関係なく理想の将来像を共有して話し合っていく場として東町プラットフォームがあります。私たちは学生メンバーとして会議に参加

しています。月一回会議があり、自分たちは建築デザインを中心に学んでいるため、そういった観点から参加しています。メンバーは三十代やそれ以上の年齢の方を中心にやっています。若い人が多い街なので、大学生の意見を大事にしてもらっています。東町は上杉神社から徒歩十五分ほどのところに位置していて、米沢市はロードサイド化が進んでいるところが多い中で、東町は全然進んでいなくて、東光の酒蔵や味噌蔵、企業や神社などが立ち並んでいて、米沢らしい風情が残っている場所になっています。大学の社会実験なども行っているので、興味がある方はぜひ来てみてください。

東町プラットフォームを通じて、「東町未来ビジョン」というものを策定しました。これは、東町プラットフォームと米沢市まちづくりシンポジウムという、世界的な建築家を招いた活動を通じて「まちをどのようにつまえるか」、「どのようになまちづくりをするのか」というところから、地域の目指す姿を企業・行政の間で共有して、進むべき方向性を示したものです。この中にも学生の意見をすく取り入れていただきました。ビジョンが八つあるんですが、そのうち三つは自

分たちの提案の中から選んでいただいています。大学生を中心にしつつ、そこから伝統なども絡め合いながら策定されました。

### 【マチスタヂオ】

東町プラットフォームで作ったものに「マチスタヂオ」があります。ここは東町を中心とした米沢のまちづくりの新たな拠点となっていて、東町未来ビジョンにも参加している、若手建築家の増田信吾十大坪克巨建築設計事務所が設計し、建築好きからは注目を浴びる建物になっています。由緒正しい建物の中に現代建築があると、少し違和感を感じるかもしれませんが、実際に通ると違和感はありません。元々納豆工場でしたが、それをリノベーションすることで、地域の方々が納豆工場の思い出に浸れる憩いの場にもなっています。令和五年六月にオープンしたばかりで、まだまだこれからですが、今後はまちづくりの拠点になっていくと思います。このような東町での活動を通じて、空き家が多いなと感じたことで、自分たちでも何かやりたいと考え、空き家改修に進んでいきます。

### 【空き家改修】

東町ポストの斜向かいに空き家があり、そこを改修してシェアハウスにしようという活動しています。最初は本当にできるのか半信半疑で始めましたが、今は面白い活動になっています。

私たちは米沢市には空き家が多いという印象を持っており、まちの空洞化が深刻な状況になっています。米沢市は三つの大学がある学園都市ですが、学生とまちとの関わりがないと感じていました。ほかに大学生が集まる場所がないとも感じ、自分たちだったらどうするか考え、「学生シェアハウス」、それから「まちの人々が集える空間」を作ったらどうかと考えました。それにより、定期的な学生の流入が見込めたり、学生と地元住民の交流の場が生まれたりするのではないかと考えました。東町は歴史ある建物が立ち並んでいるにも関わらず、車の交通量も多く、歩きづらい場所です、自分たち学生はただ通り過ぎるだけのまちになっていました。ポテンシャルがあるのにもつたいないということ、どうせならこの東町に自分たちの拠点を作りつつ、大学生がもっと楽しめる場所を作りたいと考えました。私は、「空き家は機能のない贅

沢な建築」と捉えていて、そもそも空き家とは何なのかラディカルに説明できる自分なりの解答を考えています。空き家という点、どうしてもネガティブな印象があると思いますが、空き家があるという事は、その場所を元々使っていた方がいたという歴史があります。ということとは、そこにコミュニティやポテンシャルがあったので、自分たちが再発見して、さらに強化していきたいと思っています。その中で、増田大坪建築セミナーを開催し、実測調査とか、事細かに調査しました。プロの建築家から指摘をいただき、ほかにもまちづくり会社や地域住民の方と一緒に議論する機会があり、実際に自分たちでまちの模型を百分の一スケールで作りました。堀の深さや塀の高さなども細かく再現して、寝る間も惜しんで作りました。本当に楽しみながらまちを見るいいきっかけになったと思っています。また、夜中の三時くらいに東町ポストで作業をしていた時に、外から手を振ってくるおじさんがいるなど思ったら米沢市長だったということもありました。市長は近くに住んでいて、自分たちに対してすごく期待してくれています。まちづくりに関するイベントがあると、必ず市長

が自分たちと話をしてくださるので、米沢市の方には自分たちの活動を認識してもらいたい機会になったと思っています。このシェアハウスに関しては、ハーフビルドシェアハウスにしたいと考えています。ハーフビルドシェアハウスとは、居住者が建物に対して繰り返しD-I-Yを施しながら住むシェアハウスです。例えば、このシェアハウスに学生がただ住むだけでは普通のアパートと変わらないので、そこにあった空き家の建物自体の趣きを残しながらも、少しずつ変化していくことがこの町にいい作用を与えるのではないかと考えました。そこに住むがどんだんD-I-Yをしながら住むことでそのD-I-Yの活動がまちに対してにぎわいを与えるのではないかと思っています。また、地域住民に聞いたところ、この建物をそのまま残してほしいという意見があったので、そういう意見も踏まえながら、令和六年度を目標に住み始めることを予定して検討を続けています。現在は市の補助金などを活用して事業を行っています。自分たちだけでは大変な状況になっており、今月末からクラウドファンディングを開始する予定となっています。シェアハウスは自分たちの自主性

に委ねられているもので、実際に住み始めてみなければ、わからないこともあると思いますが、今後は空き家をリノベーションしたシェアハウスというものを米沢ないしは、置賜を中心にどんだん広げられるような一つのきっかけになればと思っています。

### 【大学生の居場所の創出】

米沢の活動は「大学生の居場所の創出」をテーマにしています。山形大学に近い東町エリアをまずは一つのきっかけとして、「大学生の無目的な居場所」を作ることによって、そこで大学生がまちに還元できるようにするにはどうすればいいのか模索・検討しながら活動しています。「大学生の無目的な居場所」というのは、わかりづらいかもしませんが、例えば、子供の頃はとりあえず学校が終わったら公園に行くということがあったと思います。そして公園に行った後に、今日は何をしようかと考えたと思います。それがどんだん大人になり、大学生にもなるそのような機会・場所はなくなっているように思います。なんとなく集まる近所の公園などは子供たちが集まり賑やかさが残っていると思いますが、大学生にな

ると大学と家の往復や、飲みに行く場所など、場所と場所をつなぐだけになってしまいます。その場所と場所を結ぶ線上に何かとりあえず行ってみるかという場所を作ることによって、賑わいが生まれるのではないかと。そういった場所で地域の方と関わる事ができるのではないかなと思っており、自分たちがそのきっかけになればいいと思って活動をしています。

### 【米沢秋まつり】

ここからは、これまでの主な活動について話します。米沢市の秋まつりでは、子供向け模型作りのワークショップを行いました。私たちは昨年度から米沢に拠点を移しており、初めての本格的な活動になりました。始めは何をしたらいいかわからなかったんですが、自分たちの特性を活かして何か還元したいと思い、自分たちが模型で使っているブロック状のスタイロフォームを使って積み木のようにしたら面白いんじゃないかと思い、理想のまちをみんなで作り上げました。すごく好評な企画で子供や親も集まってきて、秋まつりの中でも一番盛り上がったイベントになったと思っています。これが自分たちの最初の原動力の一つになっ

て、これがあったから自分たちがまちなじめたと思っています。模型作りワークショップを通じて建築・デザイン学科が認識され始めたのかなと思っています。秋まつりのメインブースが棒杭市で、その設営のお手伝いもやりました。棒杭市ブースの組み立てから装飾の構想、製作までありとあらゆるものを自分たちでやって、すごく楽しみながらまちのイベントに携われた貴重なイベントでした。

### 【わっさまるしえ】

次にブランコ製作・デザインの話です。定期的に米沢市でもマルシェが行われていて、その中でも大きいものに「わっさまるしえ」があります。「わっさまるしえ」で東北芸術工科大学の学生が企画したブランコを作るイベントがあって、そのブランコの設計から製作まで自分たちでやって「わっさまるしえ」で披露しました。子供たちがこれでもかというくらい遊んでくれて、自分たちの原動力になりました。今までは大学にこもって設計課題に向き合ったりしていて、そんな活動をしているのかというところからスタートしましたが、この機会を通じて「こんなにまちっているんだ

な」、「でもこれはきつと大学生は知らない」ということを痛感しました。そこで、「『わっさまるしえ』にもっと人を呼ぼうじゃないか」と、人が来るきっかけを作りたいと思い、ブランコを製作しました。大学生のカップルが写真を撮りに一番多く来てくれました。自分たちとしては学生が来てくれて凄くうれしかったのと、マルシェの認識が広がってくれてよかったです。

### 【縁展】

二三年前に上山市で縁展を開催しました。上山温泉駅前の旧風月堂ということで、まずはシャッターが下りているところを開こうとスタートしました。自分たちの設計課題などを展示して、まちに入っていくきっかけになりました。さらに、今は使われなくなった「澤の湯」という銭湯を復活させようと、リノベーションも済んでいます。自分でリノベーションも済んでいますが、自分たちの設計課題を活かしつつ、まちの人たちにも来てもらうことで地域に根差した活動になりましたし、自分たちも上山について知るきっかけにもなりました。

## 【くてん】

さらに今年の三月に行った「くてん」では、ここにいる下田さんにも協力してもらい、山形市内のQ1、細谷ビルで卒業設計や二、四年生の設計課題作品の展示会を行いました。自分たちとしては、建築・デザイン学科の存在が知られておらず、芸工大に負けてしまっていたため、設計課題を通じてこんな学科があるということを知ってもらうことはもちろん、「自分たちはこんなにまちを見てるぞ」ということをアピールしたいという思いがありました。私たちは本当にまちをすごく見ていて、建築を志している人たちはほかの大学生よりも、とにかくまちや人を見ています。誇張しているかもしれないですが、本当にこれを見なければ何もいいものは作れないとあっていて、実際に見に来てくれた人の中には、「ここにこんなあったらよかったんだよな」と自分たちのリアルな意見がありました。その中で自分たちの考えとマッチングするいい機会だったと思っています。自分たちの特性を活かしてまちに携われると感じました。

## 【サークルの目標】

サークルとしては、「サークルメンバーひとりひとりが主体的に活動でき、自分が好きなことを見つめる」ということを目標に活動してきました。建築を志している人たちは、まちや人にとにかく興味を持っていて、それを見ながら「自分がしたいことはなんだろう」と思いながら活動しています。先ほども話にありましたが、私たちもグループLINEをやっている、基本的には自分たちが依頼を受けたことを紹介していますが、「まちでこんなイベントがあるよ」や「自分はこんなことをやりたい」ということを活発に紹介しながら、サークルの活動を行っていて、ほかの人たちが持ってきた内容もサークルをきっかけに広がっています。

## 【まちを愛する人】

自分は建築という視点を通じて、「まちを愛する人」になりたいと思っています。活動している、まちづくりをする時に一番大事なことは「まちを好きになること」、「愛すること」だと思っています。せっかく縁があって山形や米沢に住んでいるので、まちを好きにならないと生活を楽しめないのです、まずはまちを愛する人になりたいと思っています。まちを愛する方法は

人それぞれだと思っています、例えば写真を撮るのが好きな人だったら、景色の綺麗な場所だったり、人との交流の場であったり、いろいろなところにまちの魅力は隠れていて、そういったところを写真を通じて見つけたりすることがあると思います。自分個人としては、ちょっとしたポイントで人々の交流が生まれるような場所が生まれてほしいと思っています。交流があるところは隠れ気味ではあるかもしれませんが、根深いつながりがあると思っています、そういったところを見つめたいと思っています。自分が大学生の立場でまちづくりに人を引き込むために必要なことは何なのか考えると、「非日常的な経験」だと思っています。「非日常的な経験」は本当に些細なもので、私たちの場合は秋まつりがきっかけになりました。そういった経験から、地域の文化や伝統に触れつつ、学生が主体的に活動できる場を作ることが地域に求められていると思っています。きっかけは本当にささいなことでもいいと思っています。例えば、大学と家の往復だけの生活を送っている人がほとんどの中で、往復するまちの中に交流できる場所があったら、少しでも非日常の経験が味わえるのではないでし

ようか。非日常というのは祭りなどではなく、まちの人と話すことも今の時代は非日常の経験だと思っています。昔だったらご近所付き合いやお金のない学生とまちの人のつながりなどがあつたと思いますが、そういった経験が今はなくなってしまったと思っています。家に帰ったらテレビはあるし、SNSはあるし、画面を通した生活が当たり前になっていく中で、自分の知らない人と話す機会というのが非日常的な、そういった場所を作ることが自分たちの役割だと思っています。学生がやりたいことを継続的に支援してくれる人はまちには絶対にいると思うので、自分たちはそういった人たちを結び付けられるようなきっかけづくりができればいいと思っています。(終)